

アジェンダ 113 第 31 号 流域紀行取材報告

桂川・相模川流域協議会 市民会員 中門 吉松

1. 日時 : 平成 25 年 6 月 26 日 (水) 9:00~19:00
2. 取材場所 : 旧津久井郡 (城山町、津久井町、相模湖町、藤野町)
3. 参加者 : 市民会員 (勝俣、倉橋、有井、多賀、諏訪部、中門)
神奈川県事務局 (高瀬) 山梨県事務局 (河西、本山) 敬称略

流域紀行ー「かながわの水がめ周辺」編

- 【1】城山発電所／城山湖 (本沢ダム)
- 【2】城山ダム (津久井湖) 堰堤上を国道 413 号で通過
- 【3】道志川下流、津久井湖合流点直上に架かる道志橋を通過
- 【4】阿津交差点を右折、三ヶ木～阿津間は国道 412 号。桂橋の中央付近から『沼本調整池』を覗きこむ。
- 【5】国道 20 号に入って、小原本陣前を通過。(時間の関係で見学中止)
- 【6】藤野駅手前の交差点を右折、沢井川に沿って石井家住宅まで行く。
- 【7】国道 20 号まで戻って、先ほどの交差点を左折し、直ぐ次の交差点を右折、相模湖を日連大橋で渡り、道なりに真っすぐ『奥相模湖』堰堤まで南下。
- 【8】つづら折れの道を 413 号線まで上って、青根の草木館に到着。昼食。
食後、佐藤好延さんの説明と現地視察。
 - (1) 上青根浄水場下から棚田の見学。
 - (2) 青根小学校を校長先生の案内で見学。
 - (3) 相模原市職員と施設管理者による「緑の休暇村」と「いやしの湯」の説明と見学。
- 【9】413 号線に戻り、途中から鳥屋に抜けて、宮が瀬湖北岸道路を通過、相模川を小倉橋で渡って、相模川左岸。

取材内容

【城山発電所】／城山湖 (本沢ダム)

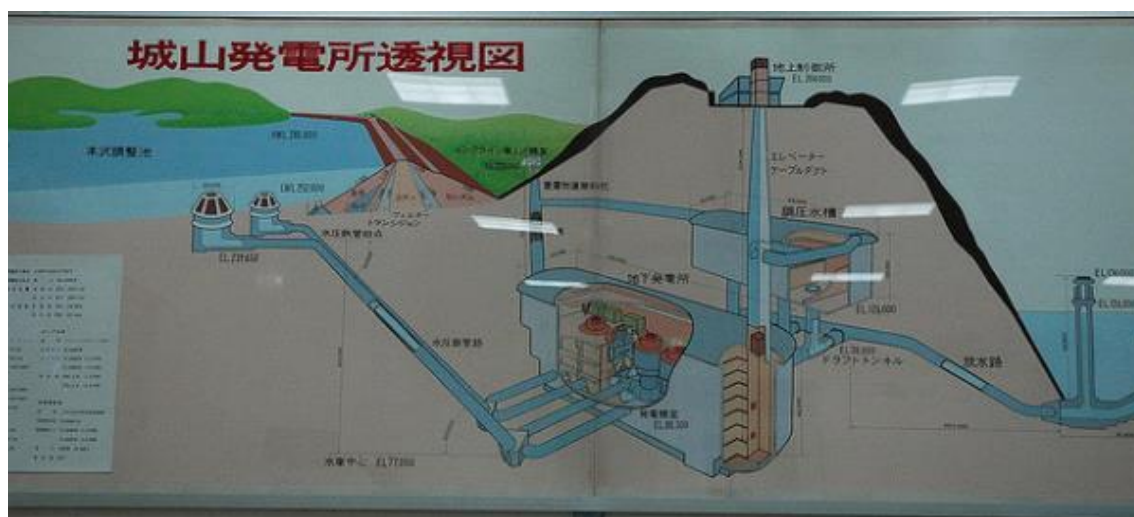
谷が原浄水場に集合し、津久井湖左岸にある本沢調整池に向かった。

城山湖は相模川総合開発事業の一環で、純揚水式の発電をするために昭和 40 年に誕生した人造湖。城山湖の水は、標高の低い津久井湖の水を汲み上げたものです。この湖は、ロックフ



イルタイプの本沢ダムによって堰き止められていて、ダム周辺の良質の土砂が多く使われ築造されています。

城山発電所は、城山湖と津久井湖を延長 1.5 km の水路で結び、この間の落差 153m を利用して発電しています。最大出力は 25 万 kw で、これは約 12 万戸の家庭で使う電気に相当します。発電所は地表から 230m の地下室（約 1,850 m²）に設置された 4 台の発電機をはじめ、地上の制御所、変電施設等から構成されています。城山湖に流れ込む水が全くないので純揚水式発電所といいます。



【桂橋から沼本調整池を覗く】

国道 412 号の阿津交差点を右折、若柳を通過し「桂橋」の中央付近から沼本調整池を覗き込むと、往古の津久井地方の相模川溪谷美を思わせる素晴らしい眺めである。下流に城山ダムができた影響で沼本ダムとしての役目は薄れたが、しっかりと調整池の機能（役目）は有しているようだ。

↓桂橋から上流を望む

桂橋から下流を望む↓



*沼本調整池に架かった橋「桂橋」

- ・千木良と若柳を結ぶ橋として、木製の吊り橋が昭和 20 年架設（昭和 33 年全面改修）されたが、それ以前の昭和初期までは「原下の渡し」「寺尾の渡し」があり、渡し舟が両地を結ぶ交通手段となっていた。現在の橋は昭和 63 年に建設され、「かながわの橋 100 選」に選ばれている。

桂川橋は上野原市にあり、新田と鶴島間を結んでいるが、相模川に架った橋が「桂橋」と名付けられた理由を調べてみたいと思っている。

【国指定重要文化財 石井家住宅】

国道 20 号線藤野駅手前を右折し、沢井トンネル（車 1 台通行）を抜けて木々が道路に多い被さる緑の中を進み沢井川沿いに来ると「国指定重要文化財石井家住宅」がありますが、現在でも 17 代当主と奥様のご夫婦二人暮らしをされている生活の場でもあります。家の前には標識、案内図等はありません。私たちの取材見学では、当家を見過ごして通過してしまい、ご当主に連絡して U ターンした後に出迎えを受けたほどに自然の中に溶け



込んでいました。「石井家住宅」は、現在も日常生活を営んでいる現用の農家で、一般にイメージされる史跡保存の建物と違い今でも家族が居住している生活感溢れる場でもありました。

石井家の祖先石井氏は後北条の地侍で、津久井衆 36 騎の 1 人で、四貫文の禄高を持つ沢井の名主（沢井村 敵知行 半所務 四貫文 石井源左衛門）でもあ

った。…敵知行半所務とあるように、この地は北条と武田の両方が絡んでおり、土豪としては土地が安堵される手法を取っていたと思われる。

現在の家を建築中、建前の時・宝永四年十一月二十三日（1707 年 12 月 16 日）10 時頃、富士山が大噴火（新井白石の自叙伝『折りたく柴の記』にも記あり）その火山灰が 12 時頃に飛んできて木材の上に降り積もった。その灰を集めて倉にしまっているという話しや、家の建築材は神の川から運んで来たという話などが伝説として伝えられてきたが、最近の調査で、降り積もった火山灰は日常生活していた「長火鉢」に使われている全ての灰が火山灰だ





と判明。運んできた建築材についても、外廊下用の踏み台として日常生活に使っている材木の切れ端に筏用の穴（エズリ穴）が開いているのが調査に来られた学者さんによって発見され、北丹沢の神の川で伐られた材木が道志川を下り、合流する相模川から上り、沢井川を引き上げられたのではないかと永年の疑問が解けたとのことだった。

見学の皆さんが、ご当主から説明をうけている間に、私は久しぶりに廂から滴り落ちる雨音を聞きながら、奥さんから「国指定重要文化財」の住宅に住まわれることについてお聞きした。天井裏には防火のための設備が張り巡らされており、以前には古くなった設備が誤動作して急に警報が鳴って困ったこと、新しく消火設備を庭に設置するにあたり、気に入っていた庭木の一部が切られてしまったこと、次世代を担うお嫁さんが自宅で採れた野菜を使って料理を作り、予約しておく文化財のお部屋で食事を頂くことができると優しい眼差しで話されたのが印象的に残っています。

ご夫婦の優しさに満ち溢れたお姿を拝見し、築 300 年の住居に住まわれて守り続けておられる石井家の皆様に尊敬の念を抱かずにはいられなかった。

購入した「北相模の歳時記」には、表紙に奥様の嫁入り写真があり、藤野地域の歴史がわかる良い冊子でした。今回は購入が叶わなかった「清酒 宝永山」は、若奥様の実家（佐久で造り酒屋・今でも地元では大庄屋と呼ばれている）で造られた酒だそうです。…再度訪れて是非試飲したいものです。

ご当主の詳細な資料に基づいた上手な説明と広い住宅の全てが文化財として素晴らしい内容です。…会員の皆さまに見学訪問をお勧めします。

【奥相模湖を堰堤から見学】

国道 20 号線から相模湖を日連大橋で渡り、緑のトンネルを曲がりくねった道なりに真っすぐ進むと、『神奈川県道志ダム・奥相模湖』と書かれた堰堤が見えてきました。

道志ダムは昭和 30 年（1955）に築造され、神奈川県内の水道用水、農業用水、発電用水の確保・増強のため、道志川の水を流域変更し、道志第 1 発電所を経由して秋山川に放流し、相模ダムに流入する流量を増





増加させることである。ダム下流の鮑子取水堰から横浜市が水道用水を取水する流量を道志第2発電所および道志第4発電所から放流している。なお、現在は、道志川の水は道志ダム上流から道志導水路により、宮ヶ瀬ダムに導水され余剰分を相模ダムに導水している。道志ダムでは、道志川下流の河川環境保全のための河川維持水量とし

て、昭和54年（1979）より奥相模湖の水を電動ポンプで汲み上げダムの直下に放流してきたが、平成18年（2006）12月、放流設備を現行の電動ポンプ方式から自然流下方式に改良し、併せて遊休落差を利用した最大出力50kWの道志ダム発電所を建設し運転開始したと記録されている。

「奥相模湖」の水は清冽でどこまでも澄み通り、上流域に人の生活圏がなく、往古からの自然そのものであることがわかる。将来に渡り、未来永劫にこの清冽な水が残ることを切に願ってやまない。

【青根の草木館で「佐藤好延さん」から青根地区の説明を受ける】

消防士を27年間務めた後、「森林整備に携わる若い労働力を育てたい」という思いを胸に、49歳でいまの会社を創業されました。

私が「佐藤好延さん」の名を知ったのは2005年に発行された本「水源の山・つくいに生きて～若者と荒廃林に挑む～」でした。同年代の佐藤さんの心意気に深く感銘し、以降、私は隠れファンの一人になりました。

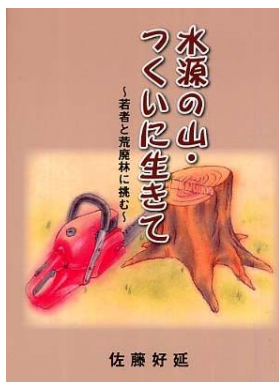
『物言わぬ 杣人たちが 護りきた 山を引き継ぐ 者となれるか』

本の冒頭に書いた筆者の歌です。

…是非、一度手に取って読んで欲しいと思います。

本業の森林整備のかたわら、地元の子どもたちや大人たちに森について知ってもらいたいと、森林教室などさまざまなイベントを行なっておられます。

「かながわ未来につなぐ森づくり賞」も受賞されました。佐藤さんのお話は、一貫して『神奈川県の大変な水源地域の村を過疎にすることなく、何としてでも活力ある村として守り抜く』という固い決意による内容であった。



代表幹事を始め参加した会員からも「青根（源流域）」の活性化についての意見が出され、短時間であったが有意義な交流ができた。

(1) 上青根浄水場下から棚田見学

青根は、神奈川県北西部、相模原市の最西部に位置し、丹沢大山国定公園と道志川に囲まれた緑豊かな山間地域で、飲料水は道志川支流の神ノ川エビラ沢（伏流水）からの水を「青根浄水場」を通して簡易水道として利用しています。豊かな水に恵まれ、山裾まで棚田があります。



↑上青根地区の棚田と住居

(2) 青根小学校を校長先生の案内で見学

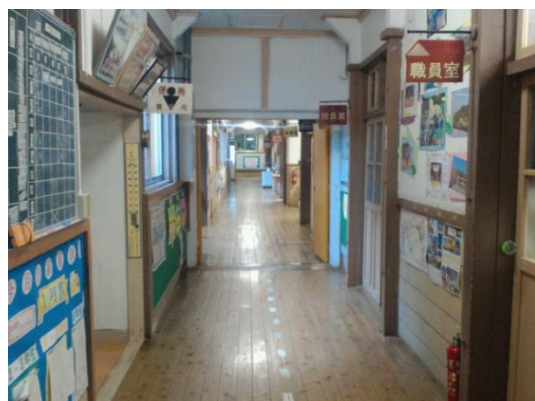


青根地区の全校生徒は小学校（9人）中学校（4人）。今回は、神奈川県で唯一（現役）の木造小学校を校長先生、佐藤さん（昭和30年代在校）の説明を受けながら磨かれて黒光りする廊下、木の階段、1階、2階の教室を見学、2階奥の一際広い教室は津久井高校の分校として使われてきたとのことであり、TVロケなどでも使用されている。感想としては、

一言、なつかしい～ 私が子供の頃に通った小学校そのものだった！

校舎に入った途端、50数年前の小学生に戻った錯覚に陥るほどの郷愁漂う感動でした。この校舎を手入れされ、補修しながら守り続ける青根地区の皆さんに頭が下がる思いでした。子供たちの数が少ない分だけ、大人の皆さんの愛情が多く注がれ、地域の皆さんの協力が得られ、青根地区ならではの教育が成されることでしょう。

↓青根小学校玄関 廊下→



(3) 相模原市職員と施設管理者による「緑の休暇村」「いやしの湯」見学

一日降り続いた雨が「緑の休暇村・いやしの湯」に着くと一入強く降り始めた。担当者の方から、いやしの湯の源泉は地下1000m以上にある、泉質が高濃度なカルシウム・ナトリウム・硫酸塩泉、アルカリ温泉のPH値9.2で効能に優れた温泉であると熱心に説明された。

…一度、天然温泉につかりながら心地良い一時をお過ごし下さい。

4. おわりに

青根の佐藤好延さんが書かれた本に『恩師の青山孝路慈先生』が発行に寄せて、今回巡った津久井地方について書かれていますので引用します。

*現在、「つくい」は山村で貧しいといわれて神奈川県西端に位置し、比較的高い山あいには集落が点在しています。その生活の基盤が危うくなってきました。…（中略）…現在の感覚で見た時、津久井は全く困難な地域です。しかし、江戸時代の津久井の人々は、困難を逆手にとらえ、得がたい得にとらえたように思えます。…（後略）…そして最後に、『以上、江戸時代の津久井の逞しさを記しました。好延さんの仕事10年（発行当時）の中に、その伝統をひきついでいると思うからです』と結んでいます。

これまで、桂川・相模川流域に住まわれる皆さんの営みを中心に取材してきましたが、更に交流し絆を深める大切さを再認識しました。

紀行文は、アジェンダ113 第31号で多賀さんが寄稿します。

今回は、有井さんが事前に資料準備、訪問先で詳細な情報提供された。

以上

↓青根、麻布大学の描いた『里山コミュニティ』青根×あざおね社中の場合



【附けたり】

青根草木館で佐藤好延さんと意見交換（要旨）

- ・ 青根で栽培されたりんごを購入して食べているが甘くて大変美味しい。最近では栽培されなくなったようだが、青根はリンゴ栽培に適していると思うので地域の活性化のため継続したらどうですか。
⇒近年、熊が降りてきて食べてしまう（昨年は全て食べられたようだ）ことが多くなり、栽培する人が少なくなってきた。（佐藤さん）
- ・ 最近では里山に住んでみたいと思う方が増えてきている。以前、青根に住みたいという方がいたので、空いているところを探したが上手くいかなかった。外の人を受け入れて青根地区を活性化する方法もあるのではないかな。
⇒私（佐藤さん）も、そのような方の受け入れ窓口をやっている。既に移住されて活躍されている方もおられ、移住の依頼を受け、順番待ちされている方も2〜3人おられるが簡単にはいかない現状にある。青根地区は世帯数でみると、約250世帯が以前からそれほど変わっていない。

麻布大学が休耕田を利用して、前記パンフレットにあるように「未来を耕すよそ者・ばか者・若者」と地域住民の社会関係資本と遊びと学びを楽しみながら、地域の元気と若者の未来を耕す力を馬座している。又、法政大学も首都圏の過疎地域研究に力を入れている。（法政大学地域研究センターでは、地域政策研究賞（最優秀賞30万円）を設定して過疎地域振興を行っている。

期待していた『相模原市・市民憩いの森構想』から青根が抜けている。

J Aは撤退してATMだけ、郵便局は一時閉鎖したが復活、バスは日・祭日3本、平日6本、鳥獣被害・鹿、猿はまだ出ていない。山ビルも増えてきつつある。このような中にあるが、何としても青根を限界集落にさせないために、林業を通して地域の活性化のため努力している。

最近では、傾斜地の大傾木（たいけいぼく）が至る所にあり、相模川流域の山（河岸）でも早急に対処しなければならない大きな課題である。

・・・大傾木を見学予定だったが、時間の関係で今回はできなかった。

↓ 青根小学校の生徒が育てているリンゴ ↓

